

実践記録 シリーズ 70

石山地域学 ～石山地区公民館地域学ことはじめ～

新潟市石山地区公民館 囑託 熊谷 いみ子



ワークショップのひとコマ

1 はじめに

新潟市の公民館では、住民自ら地域課題を見つめることを主眼とした「にいがた地域学」を平成8年度から推進し各地区でテーマを持って事業展開しています。今年度石山地区公民館も予算づけされ、始めることとなりました。石山地区は、新潟市を流れる信濃川と阿賀野川の間、いわゆる亀田郷の輪中のほぼ中央に位置します。「地元の海～芦沼～」といわれた水との戦いの本舞台の地域です。現在はJR越後石山駅、東新潟駅と2つの駅を持ち、宅地造成で開発が進み、石山団地など急激な人口を抱えた地域となり、ビッグスワン(サッカー場)の周辺や大江山の卸市場など、将来ますます開発され、変貌していくことが予想される地域です。

2 石山地区公民館では

いざ「地域学」を進めるにも、分からないことだらけです。そこで、まず職員全員が共通に理解しようと、方針を立てるためにワークショップをしました。職員も一市民として、地域学が進められるとどんな未来が描けるか、夢を語り合うことから出発しました。

手始めにいろいろな方に紹介してもらい、手分けして地域の長へ出向き「この地域のことを教えて欲しい」と聞き出しました。また公民館の一番の理解者は運営審議会委員です。一緒に考えてくださいとお願いし、地域学について意見を出していただきました。

これらの聞き取ったインタビューをまとめてみました。すると、この地域のことのぼやっと見えてきました。でも私たちは「聞けば聞いただけ分からなくなる」

という印象で、ますます混乱してきました。

そんな現況をまちづくりの関係の人に話したところ、いろいろな人と連携できるからと「まちづくり講座」を勧められました。「まちづくり講座—中級編—」(街づくり推進課主催)は市民向けのまちづくりの学びの場で、実際にまちに出て現場を持って活動します。私たちは現場のひとつに手を挙げ、興味を持ってくれた4人と職員も一参加者として、ともに活動を始めました。石山グループの誕生です。夜、毎週のように公民館に集まり計画づくりが続きました。やっとみんなで合意したことなのに言葉に引っかけたり、「おかしい」と言い出したり、迷宮に入り込んでしまいました。

石山管内はおおまかに石山、山潟、石山団地、大江山の4つの地域からなっています。地域へのインタビューのなかで「石山と聞いてどこを指す

のか、よく分からない」という声がありました。それらを考慮するといつまでも形になってきません。「それなら、逆転の発想でそれぞれのことを語ってもらう場を作ってみたらいいじゃないか」という意見が出ました。「それ!」と話がまとまり11月の下旬に開催へこぎつけました。

3 今後の展望

当日は、地域の商工会やスポーツ振興会の方、小学校の先生や校長先生、また地域の市民活動をやっている方などが参加してくれました。日頃「地域」のことに関心を寄せている方々の「語る場」になりました。終了後の反省会では、「やっぱり、4つの地区全部見てみないと分からないね」という話し合いになりました。

このように、石山地区公民館の地域学は、とつてもゆるやかな進み方です。どんなものが見えてくるのか、今の段階では分かりません。地域の人が自分の地域を熱く語り合う場面をたくさん作っていきたい、と願って取り組んでいます。

石山地域学

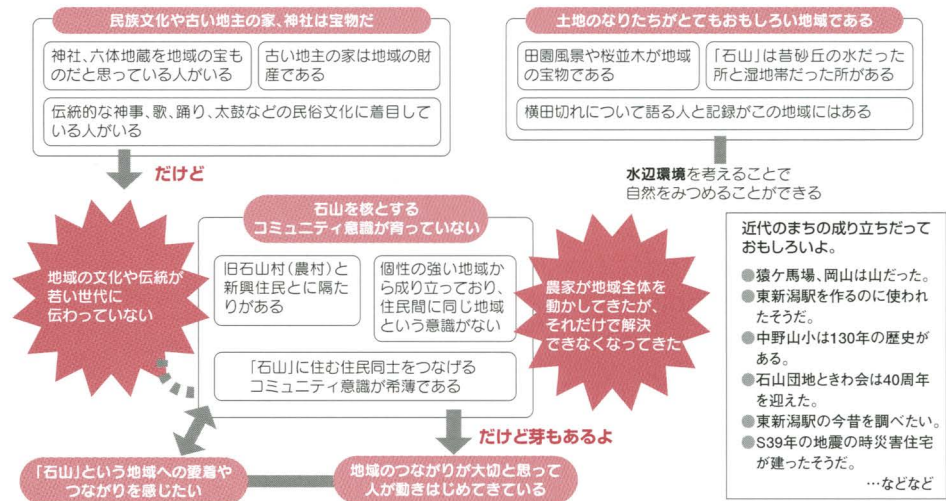
(平成15.7.15)

新潟市ではにいがた地域学推進事業として、各公民館で地域の特徴をとらえた事業を展開しています。石山地区公民館では、平成15年度から「石山の地域学」が始まります。私たちが住む「石山」、をいろんな視点や角度から光をあてていきます。このまちをみつめてみましょう。

インタビューをして ぼやっと見えてきたもの

この地域は有形、無形の歴史・民俗文化といった宝物や、この地域独自の水との戦いに象徴される土地の成り立ちなど、おもしろい素材(資源・宝物)があります。

ただ、住んだ時代、場所によってより小さな単位で生活習慣を共有してコミュニティを形成してきました。新潟市が大きな政令都市を目指している現在、「いしやま」という地域をみんなで語り、愛着がわきあがるような「あるもの探し」ができないかと思っています。



発行:新潟市石山地区公民館 ☎950-0852 新潟市石山1-1-12 ☎Fax025(286)5631 e-mail ishiyamakomin@city.niigata.niigata.jp